九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

遺言状に見る15世紀バルセロナの解放奴隷たち(上)

アルバセーテ=イ=ガスコン，アントニ

阿部，俊大
九州大学大学院言語文化研究院

https://doi.org/10.15017/1785514

出版情報：言語文化論究. 37, pp.125-133, 2016-10-14. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

遺言状に見る15世紀バルセロナの解放奴隷たち（上）

アントニ・アルバセーテ＝イ＝ガスコン著

Antoni Albacete i Gascón,
“Els lliberts barcelonins del segle XV a través dels seus testaments”,
Acta historica et archæologica Mediavevalia, 27/28（2006）, pp. 143-172.

阿　部　俊　大　訳

要　約

本論文は、15世紀バルセロナの解放奴隷を扱う。執筆に用いた情報は、バルセロナの複数の文書館に保管されている公証人文書、より正確には、解放奴隷たちの遺言状から得たものである。これらの史料からは、ひとたび自由を得た後は、彼らが完全にその新しい社会の一部となっていったことがわかる。解放奴隷たちは、いかなる見地からも完全な権利を持つ市民となっていた。

自由を得た奴隷たちが社会に統合されていったのは、１つの歴史的事実である。中世バルセロナにおける、この社会集団を研究するための基本的史料は公証人史料である。自由を得る手段は多様であった。分割式と呼ばれる、奴隷自身による分割払いでの自由の購入がある。一括支払いという手段もあった。他方、所有者による無条件での自由の譲渡もあった。また、制約や条件つきでの、所有者による譲渡というのも、自由を得る手段であった。一定期間所有者のために働くという条件付きで、自由を与えられることもあった。所有者が遺言状にその奴隷の解放を書き遺すという、遺言状による解放も有り得た[1]。他の方法として、契約期間が終わった際には自由を与えるという条件付きでの、奴隷の一時的売却もあった。婚姻契約を結ぶ目的での奴隷の購入もある[2]。最後に、父子関係を理由とする自由の譲渡も存在した[3]。また、当然ながら、逃亡によって自由を得るという可能性も存在した。もっとも、逃亡奴隷を重く罰するという法的規定が存在していたので、これは奴隷にとって非常に危険なやり方であった[4]。このことは、当時の奴隷所有者たちや支配者を心配させるほど、逃亡奴隷が相当な数に達していたことを示している[5]。

我々に元奴隷たちの社会への統合を示してくれる文書にも、様々な類型がある。労働契約や学習契約[6]。売買文書や委任文書、貸し付け記録。結婚に関する文書、すなわち、結婚契約や持参金の領収書などである。

この研究では、遺言状を主要な史料とする。遺言状は社会史に関する重要な情報源である[7]。それを通じ、解放奴隷という人間集団が、本来は彼らのものではなかった社会に、どの程度まで統合されたのかを観察することが出来る。遺言状から派生した他の文書群も忘れてはなるまい。すなわち、備忘録 memorial や遺言修正 codicil、財産目録や、競売による故人の財産の売却の報告書である。

研究に利用する文書は、主としてバルセロナ歴史公証文書館 Arxiu Històric de Protocols de Barcelona のものであり、また、バルセロナ司教座聖堂文書館 Arxiu de la Catedral de Barcelona や バルセロナ

市歴史文書館 Arxiu Històric de la Ciutat de Barcelona で保管されている公証人文書である[8]。

公証人文書

遺言状の行間からは、様々なデータを得ることが出来る。

第一に、多くの文書において、解放奴隷の出身地が示されている。彼または彼女が辿ってきたルートと奴隷市場を知ることを可能にする情報である。

遺言者の個人的な属性を示す他の情報として、婚姻状態がある。それにより、妻や夫の有無と、子がいた可能性を知ることが出来る。この情報は、元奴隷がどの程度社会に統合されていたかを、知ることを助けるデータの一つである。というのも、自由を得た後、そこで生きていかざるを得ない新しい社会への統合メカニズムの一つが、結婚だからである。

この社会集団の社会への統合を知るための他のデータ、より正確には、その統合の情報を与えるデータ群は、宗教的な機関に言及した遺贈、すなわち遺言における贈与である。この遺贈から、我々は当時のもう一つの統合メカニズムとしての宗教を見出すことが出来る。奴隷の多くは、非キリスト教圏の出自である[9]。従ってキリスト教（カトリック）への適応は、新しい社会に入る手段の一つであった。解放奴隷は、小教区へ遺贈をすることによって、都市バルセロナの特定区域に帰属することが可能となった。この情報は、幾つかの遺言状においては、より一層具体的なものである。すなわち、直接、遺言者が住む通りや、既知の情報と結びつく住居が言及されている。遺言者の職業に関係する情報や、またはそれを明示している情報も、兄弟団に対して行っている遺贈から知ることが出来る。ほとんどの場合、兄弟団は特定の職業によって創設され、運営されているからである。もう１つの極めて興味深いデータは、以前の所有者 ── 解放奴隷が自由を得る前に最後に彼／彼女を所有していた人物 ── への言及である。このデータから、かつて奴隷の境遇にあった解放奴隷の、人生に対する感覚の再現を試みることが出来る。

その他の興味深く、また解放奴隷の社会への統合状況を知るのを助けてくれる情報を、遺言と結びついた類型の史料から得ることが出来る。すなわち備忘録である。それらは、遺言状の一部を成していることも、別の文書となっていることもある。これらの文書には、遺言を作成する時点での、遺言者が貸していたり委託していたり受け取ったりしている物品や金銭も言及されていて、それに関して死後に問題が生じないことを望んで確認が行われている。幾つかの事例では、後述するように、遺言者たちから様々な種類の人々への、多くの遺贈を知ることが出来る。

遺言修正は、遺言状と結びついた公証人文書である。この論文では１点しか言及されない。この類型の文書は、既に作成された遺言状に関して、新たな遺言状を作成することなく、修正を行うために使用される。古い遺言状の幾つかの条項を維持し、更新しつつ新たな遺言状を作成する際にも使用される。

最後に、遺言状と結びついた公証人文書である、財産目録がある。これは極めて興味深いもので、死に際して遺言者が所有していた財産についての見通しを与えてくれる。このタイプの文書は、本研究では他の文書類型、競売による故人の財産の売却報告と結びついている。これにより、遺言者の死の直後に売却された動産・不動産とその価格を知ることが出来る。

以下に、遺言者たちに関する一覧表を提示する。このようにして、要約した形で、時系列順に整理された、利用した公証人文書の最も基本的なデータを示す。１列目は文書の作成日である。２列目には、遺言者に関連するすべての情報を置く。名前・国籍・配偶者・職業である。これらの多くは、すべての文書に記載されているわけではない。元奴隷の最後の所有者 ── そのもとから遺言者

が自由を獲得した人物 ── への言及は、３列目で行う。この場合もまた、当該文書から抽出したすべての情報を記す。４列目には、包括相続人を示す。ここには最小のデータのみを載せるようにしている。血縁関係や遺言執行人、また、それが遺言と関わらない人物であれば、職業が示されている。解放奴隷である場合は、もし言及があれば、出身地も書く。５列目には、遺言者が埋葬される具体的な教会を示す。６列目は、遺言者の小教区である。多くの場合、現れる情報である。続いて、兄弟団の情報が来る。これは頻繁に現れる情報ではないが、後で見るように、重要と考えられる。最後に、データを引用する際に、また当該文書の由来する文書館史料との対応を示すために使う、文書の番号が来る。本論文において、単一の文書に言及する際は、テクスト中でその番号を挙げる。複数の文書に言及する際は、脚注で番号を示す。

日付	遺言者	元の所有者	包括相続人	埋葬される教会	小教区	兄弟団	文書番号
1400/12/27	サンサ（ギリシア人・通称サマト）	ギレム・アマルゴス（故人・商人・バルセロナ市民）	慈善事業	バルセロナ司教座聖堂	サン=ペラ=ダ=ラス=プエラス		1[10]
1402/05/31	マルタ	バルナッ・マレル（故人・ジェルトルの主任司祭）	バルナッ・アンドレウ（司祭・バルセロナ・遺言執行人）	バルセロナ司教座聖堂			2[11]
1402/07/13	マルガリーダ	ガルスラン・ダ・ドリウス	マルティ・ブネッ（解放奴隷・遺言執行人）	バルセロナ司教座聖堂			3[12]
1402/10/03	マリア（農夫アントニ・ダ・サンマルティの妻）	ジャウマ・ダ・プジョル（故人・ペドラルベスの司祭）	フランシスキーナ（娘）	バルセロナ司教座聖堂			4[13]
1406/03/22	マリア（運送人でバルセロナ市民のバルナッ・サラの未亡人）	シモ・グルディオラ（故人・理髪師・バルセロナ市民）	バルトメウア（遺言執行人）	バルセロナ司教座聖堂	サンタ=マリア=ダル=ピ		5[14]
1408/02/16	カリ（アルバニア人女性）	カタリーナ（ペラ・サ・コスタの未亡人）	ラモン・アルタ（司祭・遺言執行人）	サンタ=マリア=ダル=マル			6[15]
1409/04/20	マルガリーダ	フランセスク・カスタニェル（故人・参事会員）	慈善事業	バルセロナ司教座聖堂		サンタ=エウラリア	7[16]
1410/05/13	カタリーナ	ペラ・ビウラ（故人・商人・バルセロナ市民）	ジャウマ・サン=サルニ（息子）	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		8[17]
1410/07/01	トデル・ベルトラン（マリアの夫）	アルナウ・ベルトラン（故人・バルセロナ市民）	妻が妊娠中の子	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		9[18]
1413/11/04	カタリーナ（バルセロナの住民）	アステバ・カニェラス（商人・バルセロナ市民）	慈善事業	サンタ=マリア=ダ=ラ=マルセ修道院		麻織工のサンタ=マリア=ダルス=アンジャルス	10[19]
1414/04/14	カタリーナ（サラセン人女性）	ラモン・ファブレガス	カタリーナ	サン=ジュスト	サン=ジュスト		11[20]

日付	遺言者	元の所有者	包括相続人	埋葬される教会	小教区	兄弟団	文書番号
1415/01/14	ジュアン・アルティゲス（船員・バルセロナ市民・マリアの夫）		マリア（妻）	サンタ=マリア=ダル=マル			12[21]
1417/04/17	ジュアナ	バルナッ・ロッチ（司祭・神学マギステル）	慈善事業	フラマノール修道院	サンタ=マリア=ダル=マル		13[22]
1417/08/14	ジュアン・アコラス（サルデーニャのモンタギュー村、バルセロナの住民）	シモ・オンザス（バルセロナの司祭）	カタリーナ	サンタ=マリア=ダル=カルメル修道院			14[23]
1418/05/15	リュシア	アントニ・パイロ（故人・商人・バルセロナ市民）	ジュアナ（遺言執行人）	フラーレス=プレディカドールス（説教兄弟団）修道院			15[24]
1419/10/13	ティラナ（ギリシア人）	フランセスク・ダ・シサ（故人・布地商・バルセロナ市民）	マリア（故人の姉妹・解放奴隷）	サンタ=マリア=ダル=マル	サン=ジュスト		16[25]
1419/10/16	ジュアナ（ロシア人）	ジャウマ・カルボ（故人・船主・バルセロナ市民）	ジュアネタ（遺言執行人）	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		17[26]
1422/08	マリア（小売商でバルセロナ市民のジュアン・サスコッツの妻）	ラモン・ダ・パレール（商人・バルセロナ市民）	バルトメウ・ジュアン				18[27]
1426/03/06	マリア（故人・ギリシア人）						19[28] 目録
1426/03/07	マリア（故人・ギリシア人）						20[29] 空白
1427/03/17	フランセスカ（故人）	コンスタンサ（故人・寡婦）					21[30] 目録
1427/03/22	フランセスカ（故人）	コンスタンサ（故人・寡婦）					22[31] 空白
1428/03/10	ジュアン（アルメニア人）	ペラ・カルシナルス（故人・皮なめし職人・バルセロナ市民）	ジャウマ・ブスケッツ（遺言執行人）	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		23[32]
1428/03/29	ジョルディ（アルバニア人・羊毛工・バルセロナ市民・遺言執行人マリアの夫）		ジュアン・アンドレウ（息子）	サン=ペラ=ダ=ラス=プエラス修道院	サン=ペラ=ダ=ラス=プエラス		24[33]
1429/02/16	マルティ・ブスケッツ（農夫・バルセロナ市民・カタリーナの寡夫）	ジャウマ・ブスケッツ（織工の長・バルセロナ市民）	エウラリア、ゴンサル・ガルシア、ジャウマ・ブスケッツ（遺言執行人たち）	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		25[34]

日付	遺言者	元の所有者	包括相続人	埋葬される教会	小教区	兄弟団	文書番号
1429/10/06	アンドレウ・プラッツ（羊毛商・バルセロナ市民・カタリーナの夫）	ギレム・ダ・プラッツ（商人・バルセロナ市民）	カタリーナ（妻）	フラマノール修道院	サンタ=マリア=ダル=マル		26[35]
1429/11/20	カタリーナ。バルセロナ市民で職工のマルク・カナル（通称ファンガル）の妻。	バルセロナの百人評議会の公証人であるブナナッ・ジルの寡婦マリア	慈善事業	バルセロナ司教座聖堂			27[36]
1431/01/03	マリア（お針子）	アグスティ（故人）					28[37]
1431/02/15	リュシア（ガルシア・ダ・ビレナの寡婦・バルセロナ市民）	フランセスク・ルイアル（故人・バルセロナ司教座で聖職禄を持つ司祭）	ジュアン・センドラ（遺言執行人）	バルセロナ司教座聖堂			29[38]
1431/04/20	ジュアン・クコ	ペラ・クコ（故人・農夫・バルセロナ市民）	アントニ・クコ（遺言執行人）と妻エウラリア	サンタ=マリア=ダル=マル			30[39]
1431/07/17	アントニア・シルベンタ（バルセロナ住民）	バルトメウ・シルベント（故人・王ジュアンの首席公証人	慈善事業	サンタ=マリア=ダル=ピ			31[40]
1432/03/10	マリア（侍女）	アグスティ（故人）					32[41] 空白
1433/02/17	マルタ	ビオラント（故人・バルセロナに住む騎士リゴ・ダ・クジメールの寡婦）	慈善事業	サンタ=マリア=ダル=マル			33[42]
1434/08/09	マルガノ・カスタリョ（サルデーニャ人）	ブナナッ・ビラール（太鼓奏者・バルセロナ市民）	ブナナッ・ビラール（旧所有者・遺言執行人）	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		34[43]
1434/08/10	フランセスカ（新改宗者）	ジャウマ・リエラ（故人・弁護士・バルセロナ市民）	バルナッ・カパイ・息子）	バルセロナ司教座聖堂		サンタ=カタリーナ	35[44]
1434/08/10	同上	ジャウマ・リエラ（故人）					36[45] 備忘録
1435/02/04	マルガリーダ（ブルガリア人・靴屋でバルセロナ市民のジュアン・サンマルティの寡婦）	エルビラ	ジュアン・ブリバとその妻ナ・アビネント（遺言執行人）	バルセロナ司教座聖堂	サンタ=マリア=ダル=マル		37[46]
1435/03/26	リュシア	ビラルデイ（故人・サンタ=アンナ教会で聖職禄を保持していた司祭）	ナルシス・フランク	バルセロナ司教座聖堂			38[47]

日付	遺言者	元の所有者	包括相続人	埋葬される教会	小教区	兄弟団	文書番号
1435/08/24	マルガリーダ	サウリナ（肉屋でバルセロナ市民のジュアン・バイスの妻）	ガブリエラ（遺言執行人）	サン=ペラーダ=ラス=プエラス修道院	サン=ペラ=ダ=ラス=プエラス		39[48]
1435/11/15	カタリーナ（通称マグダレーナ）	バルナッ・ムレール（故人・バルセロナの司祭）	エウラリア	バルセロナ司教座聖堂またはフラマノール修道院	サンタ=マリア=ダル=ピ	サン=ニコラウ	40[49]
1436/06/08	マルガリーダ（農夫・バルセロナ市民のアントニ・ギラベルト・ロウラの妻）	マテウ・ジャネル（故人・商人・バルセロナ市民）	アントニ・ギラベルト（夫）	バルセロナ司教座聖堂			41[50]
1439/04/09	マルガリーダ（農夫・バルセロナ市民のアントニ・カスタリェットの妻）	パウリ・サメール（商人・バルセロナ市民）	エウラリア（元の所有者の娘）	フラマノール修道院	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=カタリーナ	42[51]
1439/08/06	バルナッ・ガルビ（運送人・バルセロナ市民・エウラリアの夫）	ペラ・ガルビ（外科医・バルセロナ市民）	ジュアンとカタリーナ（子供たち）	サンタ=マリア=ダル=マル	サンタ=マリア=ダル=マル		43[52]
1440/04/16	カタリーナ（バルセロナ住民）	ジュアン・バルセブラ（公証人・バルセロナ市民）	ジャウマ・ブネッ（司祭・遺言執行人）	サン=ペラ=ダ=ラス=プエラス修道院またはサンタ=マリア=ダル=ピ	サン=ペラ=ダ=ラス=プエラスまたはサンタ=マリア=ダル=ピ		44[53]
1441/02/05	アントニア・シルベント（バルセロナ住民）	バルトメウ・シルベント（故人・王ジュアンの首席公証人）	慈善事業	バルセロナ司教座聖堂			45[54] 遺言修正
1441/03/20	マルガリーダ	リュイス・アマルゴス（故人・バルセロナ市民）	慈善事業	サンタ=マリア=ダル=ピ	サンタ=マリア=ダル=ピ		46[55]

注

1 遺言状による奴隷の解放は、他の方法と同様、取り消されうるものであった。バルセロナ司教座の、ある参事会員の遺言修正 codicil（後述する史料類型）では、マグダレーナという女奴隷に与えた自由が取り消されている。「私が私の遺言状において、私の奴隷であり捕虜 sclave et captive であり、奴隷で捕虜のままであることを望むところの、上述のマグダレーナに与えた自由を取り消し、無効とする」Arxiu Capitular de Barcelona, Gabriel Canyelles, *Primus*［*liber testamentorum*］*codicillorum et donacio- num causa mortis*, 1399, desembre, 18 - 1424, desembre, 9, f. 81r.

2 Arxiu Historic Protocols de Barcelona, Bernat Pi, *Manual* 1413, gener, 28 - 1413, juliol, 21, fols. 72r a 73r. を参照。これは東方キリスト教徒の女奴隷ジュアナの事例である。彼女は 2 年前、バルセロナの行政官 の裁定により、東方キリスト教徒で小麦の収穫人であり、バルセロナ市民であるジュアン・ダ・スリアと結婚できるように、自由を得ていた。

3 J. Hernando i Delgado, *Els esclaus islàmics a Barcelona: blancs, negres, llors i turcs. De l'esclavitud a la*

llibertat (*s.XIV*). CSIC-Institució Milà i Fontanals: Barcelona, 2003, pp. 203-249. を参照。この研究は14世紀について扱ったものだが、合法的に自由を得るための形式は、15世紀でも同じように有効であったと考えられる。

4 J. Mutgé i Vives, "Les ordinacions del municipi de Barcelona sobre els esclaus", *De l'esclavitud a la llibertat. Esclaus i lliberts a l'Edat mitjana*. Actes del Col·loqui Internacional celebrat a Barcelona del 27 al 29 de maig de 1999. CSIC-Institució Milà i Fontanals: Barcelona, 2000, pp. 245-264. を参照。

5 R. Salicrú i Lluch, *Esclaus i propietaris d'esclaus a la Catalunya del segle XV. L'assegurança contra fugues*. CSIC-Institució Milà i Fontanals: Barcelona, 1998. Id. "La implantació de la Guarda d'Esclaus i el manifest de 1421 a l vegueria de Cervera", *Miscel·lània Cerverina* 12 (1998). Centre Municipal de Cultura. Cervera, pp. 35-56. Id. "Entre el reclam de les terres islàmiques i l'escapada septentrional: la institucionalització de la por a les fugues d'esclaus a la Catalunya tardomedieval", *De l'esclavitud a la llibertat. Esclaus i lliberts a l'Edat mitjana*. Actes del Col·loqui Internacional celebrat a Barcelona del 27 al 29 de maig de 1999. CSIC-Institució Milà i Fontanals: Barcelona, 2000, pp. 87-134. Id. "En busca de una liberación alternativa: fugas y apostasía en la Corona de Aragón bajomedieval", *La liberazione dei "captivi" tra Cristianità e Islam. Oltre la Crociata e il Gihad: Tolleranza e servizio umanitario*, Gangemi Editore (Collectanea Archivi Vaticani 46), Città del Vaticano 2000, pp. 703-713. Id. "Fugues, camuflatge i treball esclau a l'entorn del castell de Tortosa i de les terres de l'Ebre en el primer terç del segle XV", *Acta Historica et Archaeologica Mediaevalia. Homenatge a la professora Dra. Maria Josepa Arnall i Juan* 25 (2003-2004), pp. 423-443. を参照。

6 J. Hernando i Delgado, "L'alimentació làctica dels nadons durant el segle XIV. Les nodrisses o dides a Barcelona, 1295-1400, segons els documents dels protocols notarials", *Estudis Històrics i Documents dels Arxius de Protocols*, XIV (1996), pp. 39-157. Id. "Els contractes de treball d'agricultors segons els protocols notarials del segle XV", *Estudis Històrics i Documents dels Arxius de Protocols*, XVI (1998), pp. 123-210. を参照。

7 遺言状の歴史史料としての重要性は、それを用いて多様なテーマを扱っている研究が膨大な量存在することから明らかである。M. J. Arnall i Juan, "Testaments de fons monacals gironins existents a l'Arxiu de la Corona d'Aragó, segles XI-XV. Llurs clàusules diplomàtiques", *De Scriptis notariorum* (*s. XI-XV*). Universitat de Barcelona: Barcelona, 1989, p. 39-159. N. Cañellas i Vilar, "Els costums de Tortosa i la seva pràctica al segle XV: el llibre de testaments de Bernat Vicents, notari de Tortosa", J. M. Sans i Travé (coord.) *Actes del I Congrés d'Història del Notriat Català*. Fundació Noguera: Barcelona, 1994, p. 515-547. F. X. Casadó Ribas, "El llegat testamentari de protocols a la ciutat de Barcelona (segle XV i primera meitat del segle XVI) ", *Estudis sobre Història de la Institució Notarial a Catalunya en honor de Raimon Noguera*. Fundació Noguera: Barcelona, 1988, p. 165-184. Ll. To Figueras, "L'evolució dels ritus funeraris a Catalunya a través dels testaments (segles X-XII) ", *Lambard. Estudis d'art medieval*, III (1983-1985), pp. 75-96. を参照。遺言状に関する数多くの参考文献については、C. Vela i Aulesa, *Especiers i candelers a Barcelona a la Baixa Edat Mitjana. Testaments, família i sociabilitat*（未刊行博士論文）を参照。

8 これ以降、バルセロナ歴史公証文書館 Arxiu Històric de Protocols de Barcelona は AHPB と表記する。 また、バルセロナ司教座聖堂文書館 Arxiu de la Catedral de Barcelona は ACB、バルセロナ市歴史文書館 Arxiu Històric de la Ciutat de Barcelona は AHCB と表記する。

9 都市バルセロナにおける東方系の奴隷や解放奴隷の集団については、Mª T. Ferrer i Mallol,

"Esclaus i lliberts orientals a Barcelona: segles XIV i XV", *De l'esclavitud a la llibertat. Esclaus i lliberts a l'Edat mitjana*. Actes del Col·loqui Internacional celebrat a Barcelona del 27 al 29 de maig de 1999. CSIC-Institució Milà i Fontanals: Barcelona, 2000, pp. 167-212. を参照。

10 AHPB. Berenguer ERMENGOL, *Llibre de testaments*, 1385-1405, fol. 139r-v.
11 ACB. Gabriel Canyelles, *Plec de testaments*, 1397-1409, capsa, fol. s.n.
12 ACB. Gabriel Canyelles, *Plec de testaments*, 1397-1409, capsa, fol. s.n.
13 ACB. Gabriel Canyelles, *Plec de testaments*, 1397-1409, capsa, fol. s.n.
14 ACB. Gabriel Canyelles, *Plec de testaments*, 1397-1409, capsa, fol. s.n.
15 ACB. Gabriel Canyelles, *Plec de testaments*, 1397-1409, capsa, fol. s.n.
16 ACB. Gabriel Canyelles, *Plec de testaments*, 1397-1409, capsa, fol. s.n.
17 AHPB. Pere PELLISER, *Liber testamentorum*, 1395-1435, fol. 25r-26r.
18 AHPB. Arnau PIQUER, *Liber testamentorum*, 1400-1417, fol. 16v-17r.
19 AHPB. Joan FERRER, *Plec de testaments*, 1413-1467, fol. 22r.
20 AHPB. Joan FRANC (major), *Primus liber testamentorum*, 1409-1430, fol. 14r-15r.
21 AHPB. Joan RENIU, *Llibre de testaments*, 1414-1420, fol. 13r-v.
22 ACB. Gabriel CANYELLES, *Plec de testaments*, 1410-1423, capsa, fol. s.n.
23 AHPB. Francesc de MANRESA, *Llibre de testaments*, 1401-1424, fol. 80v-81r.
24 AHPB. Simó CARNER, *Primus liber testamentorum*, 1409-1444, fol. 56v.
25 AHPB. Joan FRANC (major), *Primus liber testamentorum*, 1409-1430, fol. 56v-57v.
26 AHPB. Bernat PI, *Primus liber testamentorum*, 1408-1430, fol. 152r-v.
27 AHPB. Ferrer VERDAGUER, *Liber primus ultimarum voluntatum*, 1420-1432, fol. 10v-11r.
28 AHPB. Simó CARNER, *Secundus liber inventariorum et encantuum*, 1415-1429, fol. 308r-309r.
29 AHPB. Simó CARNER, *Secundus liber inventariorum et encantuum*, 1415-1429, fol. 310r-311r.
30 AHPB. Simó CARNER, *Secundus liber inventariorum et encantuum*, 1415-1429, fol. 314r-317r.
31 AHPB. Simó CARNER, *Secundus liber inventariorum et encantuum*, 1415-1429, fol. 318r-322r.
32 AHPB. Pere de FOLGUERES, Tercius liber testamentorum, 1405-1442, fol. 27v-28r.
33 AHPB. Pere de FOLGUERES, Tercius liber testamentorum, 1405-1442, fol. 18r.
34 AHPB. Pere de FOLGUERES, Tercius liber testamentorum, 1405-1442, fol. 108r.
35 AHPB. Pere de FOLGUERES, Tercius liber testamentorum, 1405-1442, fol. 38r-39r.
36 AHPB. Bartomeu FANGAR, Primus liber testamentorum, 1429-1476, fol. 17v-18r.
37 AHPB. Simó CARNER, Tercius liber inventariorum, 1430-1438, fol. 117r-118r.
38 AHPB. Francesc FERRER, *Plec de testaments*, 1416-1439, fol. s.n.
39 AHPB. Joan RENIU, *Llibre de testaments*, 1420-1431, fol. 47r-v.
40 AHPB. Joan FERRER, *Secundus liber testamentorum, codicillorum et aliarum voluntatum*, 1421-1451, 75v-76v.
41 AHPB. Simó CARNER, *Tercius liber inventariorum*, 1430-1438, fol. 115r - v.
42 AHPB. Pere de FOLGUERES, *Tercius liber testamentorum*, 1405-1442, fol. 82v-83r.
43 AHPB. Bernat PI, *Llibre de testaments*, 1417-1440, fol. 85r-86r.
44 AHPB. Francesc FERRER, *Plec de testaments*, 1416-1439, fol. s.n.
45 AHPB. Francesc FERRER, *Plec de testaments*, 1416-1439, fol. s.n.
46 AHCB. Testaments, *Plec de testaments*, 1435-1439, capsa, fol. s.n.

47 AHPB. Francesc BARAU, *Primus liber ultimarum voluntatum*, 1416-1436, fol. 18r-19r.
48 AHPB. Pere de FOLGUERES, *Tercius liber testamentorum*, 1405-1442, fol. 107v-108r.
49 AHPB. Ferrer VERDAGUER, *Llibre de testaments*, 1431-1448, fol. 12r-v.
50 AHPB. Francesc FERRER, *Plec de testaments*, 1416-1439, fol. s.n.
51 AHCB. Testaments, *Plec de testaments*, 1435-1439, capsa, fol. s.n.
52 AHPB. Pere de FOLGUERES, *Tercius liber testamentorum*, 1405-1442, fol. 111v.
53 AHPB. Guillem JORDÀ (major), *Primus liber testamentorum,* 1426-1457, fol. 93v-94r.
54 AHPB. Joan FERRER, *Secundus liber testamentorum, codicillorum et aliarum voluntatum*, 1421-1451, fol. 76v-77r.
55 AHPB. Antoni d'ILLES, *Plec de capítols matrimonials, testaments i documentació diversa*, 1414- 1446, fol. 32r-v.